



## 国有林の歴史の情報発信

平成 31 年 4 月  
福島森林管理署長 香月英伸

### 1. 福島の国有林WEB史料館の立ち上げ

来月より令和の時代を迎えます。

福島森林管理署は、明治 23 年に福島小林区署として誕生し、創立以来 129 年間、明治、大正、昭和、平成の福島の林業の歴史の一様を担ってきました。

官行斫伐（しゃくばつ）事業や造林のほか、林業種苗や木炭、きのこの生産、製材所の運用、戦前には宿泊ヒュッテを擁するスキー場や軍馬放牧場の開設など、様々な分野の事業を展開してきました。

また、運材は、トラック等車両による運材が一般的になる前は、森林鉄道や架線、水力による管流、馬牛曳き、木馬・修羅・人肩といった人力運材を行っており、山間部には今では想像も難しいくらい多くの人が生活していました。

現在は、インターネットが発達し、世界中の、また過去の情報にアクセスすることが飛躍的に容易になってきています。ただ、それは原情報があってこそそのものです。

森林管理署には、自らが運用主体となる明治時代以降のものは、豊富な情報を擁しています。

そこで、一般の方々の興味をひきそうな写真などの情報を発信するため、当署のHP内に、WEB史料館を立ち上げることにしました。

### 2. 森林鉄道の情報発信

福島の国有林の歴史について、ネット上で最も関心が持たれているのは、森林鉄道だと思います。個人のブログ等で、森林鉄道の路線について紹介するものが多く見られます。ネットで紹介されているものは、一部の路線であり、また錯誤も見られますが、情報の大元は、過去の書籍や5万分の1地形図などの記載であり、それを超える情報については、

個人の努力によって探求するには限度があります。国有林の歴史の一部について興味を持って頂き、情報を発信してもらえるのは、大変ありがたいことです。

森林管理署が情報を発信しない限り、一般の方々には知り得ない史料が森林管理署には多く存在しています。一部マニアの間での需要になるかもしれませんが、このたび、福島県内の6つの森林管理（支）署の林道台帳等の資料を収集し、福島県内の森林鉄道の全貌について把握を行いました。一部資料が散逸して詳細が分からないものなどありますが、福島県内の国有林では、明治45年から昭和45年までの間に、66路線、延長400kmの森林鉄道が運用されていたことが確認されました。これは、関東森林管理局内に存在した森林鉄道の過半を占める規模です。また、長期にわたり運用された路線もありますが、当時レールが貴重物資であったため、新設後、利用頻度が下がったものについては、レールを県内外の他路線の新設に使い回していた実態も浮かび上がりました。

また、多くは、国有林内で、トロッコを牛馬や人力で引き上げ、木材を積んで自重で下るものですが、動力に機関車を用い、多くの支線を有し、踏切を設けて国鉄の駅まで運材する本格的な森林鉄道網も存在しました。森林鉄道が国鉄の駅と国有林を結んでいた路線の起点となっていた駅は、原ノ町、浪江、木戸、大野、大越、本宮、猪苗代、徳沢です。

WEB資料館では、第一弾として、まずは福島県内国有林の森林鉄道66路線について発信していきたいと考えています。県内の全路線の情報を網羅的に発信するのは、全国でも初めての取り組みになると思います。

また、管内の観光協会からは、古軌条（レール）を再布設して、歴史的観光資源としたいとの要望も寄せられており、そういった動きとの連携も図っていききたいと考えています。



猪苗代林道小野川線（猪苗代営林署）  
小野川不動滝とダイムラー社製ガソリン機関車



本宮林道（郡山営林署）背景は安達太良山

### 3. その他に関する情報発信

我が国の一次エネルギー供給に占める薪炭の割合は、福島小林区署が発足する頃の明治22年当時で84.5%、その後増産がなされつつも、主に産業分野での石炭・石油の利用が進み、太平洋戦争開戦前年の昭和15年当時で10.4%、薪炭利用が急速に減少していく昭和35年当時でも明治初期と概ね同量の薪炭供給がなされており、3.6%と、昭和30年代半ば

までは、薪炭は我が国のエネルギー分野でも極めて重要な資源でした。山からは、薪炭材が木材用途と同等或いはそれ以上に材出されてきました。

国有林内で生産・荷造りされた木炭は、国鉄駅などに運搬され、県内・県外で利用されました。木炭の生産や運搬、木炭品評会などの写真も署に現存しています。

このような、現在はほとんど忘れ去れつつある、かつての県内官行事業について、史料価値のありそうなものについても、WEB史料館で公開していきたいと考えています。



木炭荷造り



木戸官行木炭運搬



国鉄船引駅 郡山営林署木炭倉庫



木炭品評会